



どんなこと?

胃や腸のバリウムを使う 消化管の検査

消化管の検査には主に胃X線検査と大腸X線検査があります。胃や大腸は、骨のようにX線画像には写らないので、X線画像によく写るバリウムを胃や大腸の粘膜に付着させてから撮影します。



大腸X線検査



バリウム

胃X線検査とは、バリウムと発泡剤を服用して検査台で体を回転させることによって、胃の粘膜にバリウムを付着させて粘膜の異常を見つける検査です。検査時間は10～15分です。

大腸X線検査とは、お尻から自動注腸装置によってバリウムと空気を入れて大腸の病変の有無を見る検査です。体位変換により、バリウムを大腸の一番奥(大腸と小腸のつなぎ目)まで運び、大腸の一番奥までバリウムが到達したら撮影を開始して粘膜の異常を見つけます。検査時間は20～30分です。

胃X線検査の注意点

- ①検査前日は夕食は21時まで。(飲水は可)
- ②検査当日は検査終了まで絶飲食です。(煙草も不可)
- ③検査中はゲップを我慢してください。胃が萎んで小さな病変が見えにくくなります。
- ④検査後は水分を多めにとるようにしてください。(バリウムによる便秘を防ぐため)

大腸X線検査の注意点

- ①検査前日は施設で指定された食事をします。(飲水は可)
- ②検査前日の就寝前に下剤を服用します。
- ③検査当日は絶食です。(飲水は可)
- ④検査当日も下剤を服用します。

もっと詳しく!

I バリウム

胃や腸の粘膜をX線画像に写すために飲んでいただくものです。近頃のバリウムはサラサラしていて飲みやすくなり、量も150ccと少なめになってきています。

II 発泡剤

胃X線検査では発泡剤を服用します。発泡剤は水と混ぜると空気を発生させるので胃が膨れてゲップが出やすくなります。なぜ胃を膨らませるかというと、胃の中にはひだがあって、それを伸ばして良く見るためです。

ゲップをしてしまうと胃が萎んでしまって小さな病変が隠れてしまい、良い画像が撮影できなくなったりします。大変でもゲップは我慢する必要があります。

III 体位変換

胃X線検査では、バリウムを胃全体にまんべんなく付着させるために体の向きを変えて撮影していきます。

間違った体位変換をしてしまうと小腸にバリウムが流れすぎてしまい胃と重なり、きれいな胃の画像が撮れなくなってしまいます。

大腸X線検査では、人によって大腸の長さや形が異なるので、大腸と小腸のつなぎ目までバリウムが到達するように診療放射線技師の指示通りに体位変換をしてください。

IV 下剤

バリウムが小腸や大腸に流れると特に便秘ぎみの人はバリウムが固まってしまって、さらに排泄困難となります。検査後は下剤と水分を多めにとるようにしてください。

V 自動注腸装置

バリウムと空気を遠隔操作によって大腸内に注入したり、排泄したりすることができる機器です。



胃部X線画像
「↑」の部分に胃がんがあります。



大腸X線画像
「↑」の部分に大腸がんがあります。